

# ふるさと探訪

## 第57回 西大塚古墳



▲古代の人はどのような思いで亡くなった人を弔い巨石を積んだのでしょうか

JR伊予氷見駅の眼前に広がるなだらかな丘陵地の中央、緑の木立ちの中に石岡神社があります。その社殿の南西方向にある畑の中に残されている大きな石積みが西大塚古墳です。

東予地方で確認されているこの種の古墳としては中規模のものですが、西条地区では最大級の横穴式古墳です。

昭和5（1930）年に行われた実測調査の記録では、羨道<sup>せんどう</sup>の長さは1・18<sup>メートル</sup>、幅は入口で1・15<sup>メートル</sup>、奥で1・24<sup>メートル</sup>、玄室の長さは4・99<sup>メートル</sup>、幅は入口で1・76<sup>メートル</sup>、奥壁で2・10<sup>メートル</sup>、底部には割り石を

敷き詰めた跡があったようです。調査当時には残されていた墳墓を覆う封土も、その後取り除かれ、現在では天井石が露出しています。

しかしながら、人の力によっておおよそ千五百年も前に築かれた巨大な石組みがたたずむ姿には、歴史のロマンを感じずにはいられません。※畑への無断立入りはできません。

■場所 氷見乙1212  
■駐車場 なし

